

1 研究主題

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～タスク活動の工夫を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

本研究会では、毎年、研究会で学んだことを授業で生かせるように、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行っている。

本年度は、研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～タスク活動の工夫を通して～」とし、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年度まで取り組んできたことを継続して研究していくこととした。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語の「教育課程特例校」の指定を受けた小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」を含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも、新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。小中連携についても、小学校の英語の授業を参観したり、中学校の教員が小学校に出向き英語の授業を行ったりしているが、そこからさらにどのような連携ができるのか、今年度は学びを深めていきたい。

私たちは、小学校における外国語活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地を児童に、また、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことができるなどの「コミュニケーション能力」を生徒に身につけさせなければならない。このようなコミュニケーション能力の素地やコミュニケーション能力を身につけさせていくためには、児童や生徒自身の学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが最も重要であると考ええる。そのためには、学習したことが、どのように自分の生活に役立つのか、どの場面で使うのかなど、児童・生徒の生活と結びつくことで、より学習に対して意欲的に取り組むことができると考える。そこで、既習事項を活用しながら、児童・生徒により身近で、実際の生活と関連性のあるタスク活動を仕組んでいくことで、児童・生徒が学習内容を身近に感じたり、学習に対して必要性を感じたりして、児童・生徒の英語学習への意欲を高められるだろうと考え、本テーマを設定した。昨年度は、「わかる授業・楽しい授業」をサブテーマに取り組んだが、今年度は、昨年度のものをより具体的にして「わかる」につなげるために、タスク活動について、学びを深め授業に役立てていきたい。

(2) 研究の経過と今後の予定

月日	内容	司会・記録
5月 6日	組織決定・今年度の研究の方向性・統一授業研について	山北中
5月18日	研究の方向性(サブテーマを含む)について・小中分科会	山南中
6月 1日	タスク活動についての学習会 (講師：山梨大学教授田中武夫先生)	塩山中

8月 1日	小中連携についての学習会 (講師：山梨大学教授田中武夫先生) 統一授業研指導案検討	松里中・山梨市小
8月 31日	統一授業研① (授業者：山梨北中学校 廣瀬剛先生)	山北中
9月 28日	校種別事例研究① 学年別タスク活動の検討	勝沼中・甲州市小
11月 30日	校種別事例研究② 学年別タスク活動の検討	山南中
1月 11日	統一授業研指導案検討	塩山中
2月 8日	統一授業研 (授業者：笛川小学校 小池美樹先生)	松里中・山梨市小
2月 15日	今年度の研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	勝沼中・甲州市小

(3) 研究目的および研究仮説，仮説の検証方法

①研究目的

英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

②研究仮説

児童・生徒の身近で、実際の生活と関連のあるタスク活動を取り入れることによって、児童・生徒の学習意欲が高まるだろう。

③仮説の検証方法

研究主題にせまるため、校種別，学年別に教材研究・指導法の工夫の検討と実践。指導案検討や研究授業を通して仮説の検証をする。

(4) 研究内容

- ・タスク活動について学ぶ。
- ・研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践。
- ・タスク活動の検討と実践。
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- ・小学校英語科について学ぶ。

3 授業実践

第1学年英語科学習指導案

指導者 廣瀬 剛

ALT ブーナン・ハエリワン

I 単元名 Unit 5 学校の文化祭 New Horizon English Course 1 (東京書籍)

II 単元について

本単元は、緑中学校の文化祭でカレー作りをする光太にインド出身のディーパがレシピについて質問をする場面から始まり、食事作法の違いなどへと話が広がる。また、別会場では、

ベッキーと咲とが何を朝食で食べるかを話しており、世界の様々な食生活・食文化に興味関心を高めるきっかけとなる教材である。

言語材料は **What is ... ?** の疑問文とその応答, **What do you ... ?** の疑問文と応答, 形容詞の叙述用法である。小学校の外国語活動でも **what** を使用した疑問文の応答や形容詞を用いた表現の学習はしている。そこで形容詞の学習では, よりたくさん形容詞の表現を明示し, 使いこなせるようにしたいと考え, クイズ形式で身のまわりの物についてヒントをだしてそれに答える活動を行い, 生徒達の意欲や関心を引き出したい。**What** を用いた文の応答では, インタビュー活動などを行う中で, 自分の知らない情報を聞き出すなどの活動を通して文の構造などを理解・定着へとつなげていきたい。

Ⅲ 生徒の実態

男子 19 名女子 14 名計 33 名のクラスで, 元気で明るい雰囲気を持つ男子と, おとなしいがしっかりしている女子が多いことが特徴である。英語の授業においては, おおむね意欲を持って取り組める生徒が多く, 発音練習も大きな声のできる生徒が多い。小学校時代より英語に慣れ親しんでいるため, 教師の話す英語についても, それほど抵抗なく理解をしているように見える。しかし, 英語を「話すこと」や「書くこと」に関しては苦手意識を持つ生徒が多く, しっかりと英語のルールを理解した上で, 正しく英文を表現できるように指導することが今後の課題である。授業ではどの生徒も苦手な分野である「英作文」にも対応できるように「自分自身のことや自分が表現したいことについて英語で説明する」ための活動を適宜行っている。

『英語の学習アンケート』から (2017 年 9 月実施)

① 英語の授業は楽しいですか?

楽しい 18	すこし楽しい 13	あまり楽しくない 2	楽しくない 0
-----------	--------------	---------------	------------

質問①で「楽しい」と答えた生徒の解答理由

- ・生徒同士の交流が楽しい
- ・発音練習が楽しい
- ・クイズやゲームが楽しい
- ・先生とのやりとりが楽しい
- ・できるようになると楽しい
- ・アクティビティが楽しい
- ・外国の文化に触れることができる

② あなたは授業の中で英語を聞いて, どの程度内容がわかりますか?

わかる 6	だいたいわかる 25	あまりわからない 1	わからない 1
----------	---------------	---------------	------------

③ あなたは授業の中でこれまでに学習した英語を使ってどの程度話すことができますか?

話せる 5	少し話せる 12	あまり話せない 5	話せない 0
----------	-------------	--------------	-----------

④ 英語の学習は大切だと思いますか?

そう思う 24	少しそう思う 6	あまりそう思わない 2	思わない 0
------------	-------------	----------------	-----------

⑤ 英語の学習はこれからの生活に役に立つと思いますか?

そう思う 21	少しそう思う 11	あまりそう思わない 1	思わない 0
------------	--------------	----------------	-----------

IV 本授業と東山梨教育協議会の研究テーマとのかかわり

東山梨教育協議会では本年度の研究テーマを「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～タスク活動の工夫を通して～」と設定し、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年度まで取り組んできたことを継続して研究をしている。

本授業では、教科書 Unit5 で学習する形容詞の用法や 1 学期までに学習した既習事項を使用しながら、「身のまわりのものについて表現をする」ことを目的とした活動を行う。この活動は生徒が学習意欲を高められるように、クイズ形式を用いて行う活動で、与えられたトピックに対して生徒自身がその場で 3 つのヒントを考えて相手に伝え、相手がそれを当てるという「Three hints quiz」のタスク活動である。

V 単元のねらい

- (1) 自分が知らないものなどについてたずねたり答えたりすることができる。
- (2) 身のまわりのものやことについて相手に伝えることができる。
- (3) 疑問詞 **what** を使った文の構造を理解する。
- (4) 形容詞を使った英文の構造を理解する。

VI 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
①ペアワークにおいて間違いを恐れずに話している。	①形容詞を用いて身のまわりのものについて表現することができる。 ②疑問詞 what を用いて質問したり適切に応答することができる	この観点では、評価しない。	①疑問詞 what を用いた文の構造を理解している ②形容詞を用いた文構造を理解している。

※各観点の名称については便宜上次の通りに記述する。

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度 : ア
 外国語表現の能力 : イ
 外国語理解の能力 : ウ
 言語・文化についての知識・理解 : エ

Ⅶ 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	○ねらい・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○Unit 5 のオリエンテーションを実施し、単元の見通しをもたせる。		
	○疑問詞 what を用いた文の構造を理解する。 ・疑問詞 what を用いた文の構造を知る。 ・疑問詞 what を用いた文を使用してインタビュー活動をする。	イ② エ①	活動の観察後日 ペーパーテスト
2	○形容詞を用いて身のまわりの物を表現する。 ・形容詞の使用場面や使用の仕方などを知る。 ・形容詞を用いて詳しく説明する文を表現する。	エ②	後日ペーパーテスト
3 (本時)	○Three hints quiz の活動で、身のまわりのものを表現する。 ・表現したい物について形容詞などを使い相手に出題する ・表現したい物について形容詞などを使った文を書く。	ア① イ①	活動の観察生徒 の作品
4	○ What do you ~? の文の構造を理解する ・ What do you ~? の文の構造を知る。 ・ What do you ~? を用いた文を使用してインタビュー活動をする	ア① イ③	活動の観察後日 ペーパーテスト
5	○教科書 p58 の内容を理解する。 ・ワークシートを使って、内容を理解する。 ・ペアで音読の練習をする。	エ①	後日ペーパーテスト
6	○教科書 p60 の内容を理解する。 ・ワークシートを使って、内容を理解する。 ・ペアで音読の練習をする。	エ②	後日ペーパーテスト
7	○教科書 p62 の内容を理解する。 ・ワークシートを使って、内容を理解する。 ・ペアで音読の練習をする。	エ①	後日ペーパーテスト
後日	〈ペーパーテスト〉 ◇疑問詞 what を用いた文やその受け答えの仕方の理解をみる問題を出題する。 ◇場面や状況にふさわしい形容詞を理解できているかをみる問題を出題する。	エ① エ②	ペーパーテスト

Ⅷ 本時の授業（単元計画 7 時間中の 3 時間目）

- (1) 日時 平成 29 年 8 月 30 日（水）5 時間目 （14:00 ～14:50）
- (2) 場所 1 年 3 組教室
- (3) 学級 1 年 3 組（33 人）

(4) 本時の目標 (ねらい)

- ・形容詞を用いて身のまわりのものを表現することができる。(外国語表現の能力)
- ・間違ふことを恐れずに身のまわりのものを英語で伝えることができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(5) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	教師の指導及び支援	評価計画・備考						
導入 (5)	・あいさつ・日付などの確認。 ・好きなクイズ番組についてやりとり。	・あいさつ・日付などの確認。 ・好きなクイズ番組についてのやりとり。							
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ヒントを出して身のまわりのものを表現してみよう </div>								
課題の把握 (10)	・本日の学習課題と目標について、教師の説明を聞く。 ・教師と ALT の three hints quiz のデモンストレーションをみて活動のやり方を確認する。	・本日の学習課題の確認と、目標の確認をする。 ・教師と ALT の three hints quiz のデモンストレーションをみせる。							
活動 (25)	・クイズで出題をするトピックが描かれたピクチャーカードを受け取り、表現の仕方を考える。 ・ペアにヒントを出し、クイズを行う。 ・フィードバックを聞き、自分の表現の仕方について、確認や修正を行う。	・クイズで出題をするトピックが描かれたピクチャーカードを配布し、まずは自分でヒントを考えさせる。 ・机間巡視をしながら生徒の活動を見る。 ・モデル文を提示しながらフィードバックを行う (ある程度生徒が表現に部分を予想しておく)。	ア① イ①						
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>《教師のフィードバックのモデル文》</p> <p style="text-align: center;">Topic 【apple】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">This is a fruit.</td> <td style="width: 50%;">This is a red fruit.</td> </tr> <tr> <td>This is red.</td> <td>This is sweet and delicious.</td> </tr> <tr> <td>This is sweet.</td> <td>Aomori is famous for this.</td> </tr> </table> </div>		This is a fruit.	This is a red fruit.	This is red.	This is sweet and delicious.	This is sweet.	Aomori is famous for this.	
This is a fruit.	This is a red fruit.								
This is red.	This is sweet and delicious.								
This is sweet.	Aomori is famous for this.								
	・もう一度同じトピックでヒントを考え、ペアを変えてクイズを出し合う。	・例題を出しながら、どんなヒントを与えたらいいのかについて、生徒とともに考えていく 【・種類・色・味など】 ・「形容詞」についての復習	ア① イ①						

	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなピクチャーカードをもらい、再び three hints quiz の表現の仕方を考える。 ・教室を歩きまわり、制限時間内でたくさんの生徒とクイズを出し合う。 ・席に戻って、手持ちのカードの中からトピックを1つ選び、3文(以上)で説明文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をたくさん伝える(形容詞+名詞や and を用いた表現などを使用) a red fruit / sweet and delicious ・～ is famous for this .の表現が使えることを伝える。 ・たずね方と答え方、そして答えに対してのリアクションの確認をする。 ・新たなピクチャーカードを配布する 	
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提出する。 ・振り返りカードを記入する。 ・あいさつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提出させる。 ・振り返りカードを記入させる。 ・あいさつ。 	<p>ア① イ① イ①</p>

(6) 本時の評価計画

評価規準 (B 概ね満足できる状況)	A 十分満足できる状況	C に対する手だて
ア① ・形容詞を用いて身のまわりのものについて間違いを恐れずに話している	・形容詞を用いて身のまわりのものについて相手の反応を見ながら話している	・ペアで事前に練習をすることで自信を持って活動に臨ませる。
イ① ・形容詞を用いてわりのものについて適切に表現することができる。 【apple】 This is a fruit. This is red. This is sweet.	・発音にも気をつけながら形容詞を用いて身のまわりのものについて適切に表現することができる。 【apple】 This is a red fruit. This is sweet and delicious. Aomori is famous for this.	・フィードバックをすることで理解の助けとする ・例文を板書してクイズ活動時には見ながら活動ができるようにする ・クイズの前にペアで練習をさせる

IX 研究討議より

タスク活動について

- ・「クイズを出してそれに答える」という生徒にとってシンプルで理解しやすく、かつ興味を引き起こしやすい活動であったので、生徒たちはとても楽しそうに活動に取り組んでいた。
- ・授業の導入から、最初の **Three hints quiz** の活動まで **All in English** で指示をすることができていたが、生徒の中には何をするのかを理解できていない生徒もいたので、一つひとつ指示を細かく区切って行ったり、生徒に確認をしたりしながらすれば、なおわかりやすかった。
- ・タスク活動を行うにあたって、生徒が表現に悩んだり、迷ったりする場面でも、授業者は机間巡視中は観察に徹していた。全体でのフィードバックを活動後に行っていたが、目の前にいる生徒が表現に困って助けを求めてきた場合は、教えてあげてもよかったのではないかな。
- ・一度目の活動は「タスク活動」と呼べると思うが、活動を振り返る「フィードバック」である程度「表現」のことを確認したあとの活動は、「タスク」ではなく「プラクティス」なのではないかな。

授業全体について

- ・授業で使用したピクチャーカードのトピックは、「食べ物」で統一されており、かつそれぞれのカードには、中学一年生でも表現しやすい特徴がある物だったので、出題する生徒にとっても、答える生徒にとってもわかりやすいトピックが選ばれていてよかった。
- ・ALT がもっとたくさん活躍できる場面があるとよかった。
- ・そもそも「**Three hints quiz**」の、「**three**」は「ヒントが3つ」という意味なのか、「3文」という意味なのか明確ではなかったもので、それに関して説明があってもよかった。

4 成果と課題

今年度は、本研究主題の継続研究3年目で、昨年度のサブテーマ「わかる授業・楽しい授業」を、より具体的にして「わかる」につなげるために、「タスク活動」について学びを深めた。また今年度は、講師を2回招聘し、1回目はサブテーマにある「タスク活動」について、2回目は「小中連携について」学びを深めることができた。タスク活動については、タスク活動とアクティビティーとの違いや、タスク活動後のフィードバックの大切さ、具体的なタスクに基づく指導などを学び、その後の研究授業では、生徒が意欲的に取り組めるようなタスクの工夫に力を入れた。

研究授業では、身の回りのものを、3つのヒントを英語で出し、言われた側がそれを当てる「**Three hints quiz**」を行った。トピックに、小学校外国語活動で学習した単語を使うことで、小中連携を意識したり、ペアを換えながら何回もクイズを出し合うことで、同じようなフレーズを何回も使い、表現を定着させたりした。英語で3つヒントを出すことがタスクだったが、中学1年生でまだ語彙の数が少ないので、その中でタスク活動を仕組んでいくことは難しい、という課題も出た。また、活動後のフィードバックの仕方や、フィードバックをした後の活動で、どのようなタスク活動をすることがより生徒が意欲的に取り組めるのか、タスクについて今後さらに学びを深めていきたい。

研究授業の後、これまでの学習を踏まえ、学年ごとに分かれ、具体的な活動を検討し、部員がそれぞれタスク活動を通して、学習意欲を高める活動の実践を行い、その成果や課題な

どを部会で発表し、研究討議を行っていく予定である。部員全員が実際にテーマに沿った授業実践を行うことで、さらにテーマに迫ることができるのではないかと考える。また、議論を深めることで、今年度の研究を実際の児童・生徒のためになるような確かなものとしていきたい。

本年度も昨年度同様、小中連携を意識した活動に取り組んでいる。年2回の統一授業研究では必ず小学校と中学校の授業を参観しており、今年度も2月に小学校の授業を参観する予定である。研究会では、小学校外国語活動の授業の様子や、具体的な活動について情報交換をした。お互いの授業を参観するだけにとどまらず、お互いの実践を共有し合ったり、活用し合ったりすることで、小学校から中学校への繋がりをスムーズにしていきたい。小中連携を念頭に置き、お互いの実践を授業で活用する機会をより多く作り、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。

5 研究組織および部員

- ・助言者 廣瀬 芳樹（山梨小学校）
- ・部長 利根川 紫野（山梨北中学校）
- ・副部長 加藤 紀子（松里中学校） 飯室 林（日下部小学校）
- ・部員 三枝 ゆかり（塩山中学校） 水上 かおり（塩山中学校）
益田 宗士（塩山中学校） 佐藤 佳奈（塩山中学校）
河野 美春（塩山北中学校） 柏原 一仁（大和中学校）
長嶋 明美（山梨南中学校） 平井 成二（山梨南中学校）
大村 隆（山梨南中学校） 依田 久（山梨南中学校）
廣瀬 剛（山梨北中学校） 井口 飛鳥（笛川中学校）
小宮山 公仁（塩山北小学校） 渡邊 皓（塩山北小学校）
藤木 真里佳（日下部小学校） 小池 美樹（笛川小学校）